医療安全全国共同行動

“いのちをまもるパートナーズ”

(2nd Stage 2011-12)

いのちをまもるPARTNERS
医療安全全国共同行動

http://kyodokodo.jp/
secretariatpartners@kyodokodo.jp

医療安全全国共同行動への参加を呼びかけます

あい次ぐ医療事故によって、いま医療に対する信頼が大きく揺らいでいます。

医療従事者は医療の安全確保に日々努力を重ねています。しかし、医療技術の急速な進歩に対して医療システムや制度改革が遅れた結果、欧米の調査によると、入院患者の3%～16%に医療行為に伴う何らかの傷害（有害事象）が生じており、米国医学研究所は、そのうち半数強は回避可能なものでこれらの傷害が関与して死亡したと推定される死亡の数は年間44,000人から98,000人に上ると報告し、医療システムの質と安全を早急に改善する必要があることを指摘しました。日本の調査では、入院患者の6.8%で有害事象が生じていることが報告されており、これはカナダでの発生頻度とほぼ同じであることを示します。

医療過程で生じる有害事象には本来回避可能なものと不可避のものがありますが、有害事象が多発する現実を直視すれば、これら多発する有害事象を可能な限り低減させ、かつ有害事象から患者さんの生命を守るために全力を尽くすことは医療に関わるすべての人々の責務であります。いまこそ、医療を担う人々と医療機関、医療を支えるさまざまな団体・学会・行政・地域社会は、立場や職種の壁を超え、一致協力して有害事象の低減と医療事故の防止に総力をあげて取り組むべきとの考えのもと、2008年5月に医療安全全国共同行動（“いのちをまもるパートナーズ”キャンペーン）の実施を呼びかけました。これを受けて、日本の医療を担う多くの団体と全国の医療機関が自主的に参加し、互いに協力しながら医療の質・安全の確保と向上をめざす組織的な活動を推進してまいりました。

これまで2年間の活動を通じて安全対策の普及が進み、指標にもその成果が現れつつあります。その成果を確たるものとし、医療安全の普及をさらに進めるために、共同行動の一層の拡大と発展が重要と考えますことから、全国の医療機関と医療に関わるすべての人々にこのプロジェクトにご参加いただき、ともに力を合わせて信頼される医療の確立を実現することを呼びかけます。また、患者さんと医療者がともに安心して治療に専念できる医療環境づくりに、国民の皆様のご協力とご支援をお願いいたします。

2012年1月1日

医療の質・安全学会理事長　高久 史麿
日本医師会会長　原中 勝征
日本歯科医師会会長　大久保 満男
日本看護協会会長　坂本 すが
日本病院薬剤師会会長　堀内 龍也
日本臨床工学技士会会長　川崎 忠行

医療安全全国共同行動（2nd Stage 2011-12）の提案

医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”は、医療行為に関わる有害事象と有害事象に起因する入院中の死亡を低減するために、8つの安全目標と推奨対策を、広くかつ早く全国の医療機関に広めることを目的とするキャンペーン事業で、2008年5月にスタートしました。

従来、団体や学会が個別に進めていた医療安全の取り組みを、優先目標を共有することでそれぞれの取り組みが効果的に連携し、職種や専門の壁を超えたチーム・アプローチを容易にし、相乗的効果を発揮することをめざしています。

2008年5月17日に日本経団連会館で行われたキックオフ・フォーラムを皮切りに、近畿、北九州、東北で地域でキックオフ・フォーラムを開催して、共同行動へ参加を呼びかけるほか、ホームページからキャンペーンの趣旨を伝えるよう努めました。このような医療界挙げての共同行動は日本では初めてのことで、事業財源の制約もあり、文字通り手作り手探りで進めてまいりましたが、幸い多数の団体、学会の協力をいただき、共同行動の存在がだんだん知られるようになってきました。共同行動の地域推進拠点になっていただいた地域の団体や機関のご尽力により、全国各地で27回の地域フォーラムと支援セミナーを開催したほか、協賛いただいている企業にも8目標の実現を援ける研修会の開催にご支援をいただきました。

また、100名を超える多職種専門家の方々がボランティアで支援活動に従事し、8つの目標を実現するためのハウツーガイドや支援ツールの開発、メールやネット相談室を通じてのアドバイス、フォーラム分科会やセミナーの開催など、病院の取り組みへの支援にご尽力いただいています。

参加団体・施設、協賛団体のほか日薬連をはじめとする多数の企業からご援助いただいたおかげで、2009年から、定期報告による進捗状況のグラフ化、標準化病院死亡比（HSMR）の測定、9月からはウエブマガジンも発行できるようになり、取組み事例や成功事例の紹介も増えてきました。ビデオ教材の開発と提供、2010年からインターネットの公開動画サイトから動画映像の提供も始まるなど、ようやく共同行動が軌道に乗ってきたところで、3年目を迎えました。

これまでに、参加協力団体として82の団体と学会、地域推進委員会として49の地域団体、参加登録施設として613の病院が参加し、8つの目標の実現に取り組んでいます。参加登録病院のアンケートでは、ほとんどの施設が参加してよかったと答え（97.5%）、その理由として、目標が明確になったことや、参考になる情報や知識が得られたことを挙げています。

定期進捗報告によれば、推奨する対策59項目のうち、報告開始時に50%以上の施設で対策が浸透済み（対象となる部署のすべてで実施されている）とされた項目は当初12項目でしたが、最新の報告では29項目に増えました。また、「共同行動期間中に40%以上の施設で進展が見られた項目」が29項目に上るなど、各医療機関で安全対策が浸透しつつあることがわかりました。

共同行動では、改善効果を見る総合的な指標として欧米諸国で用いられている標準化病院死亡比（HSMR）を参考にするために、開発者である英国王立大学名誉教授ブライアン・ジャーマン卿に日本のHSMR基準値の算出と共同行動参加登録病院における変化の分析を依頼しました。185施設から提供されたDPCデータを基に、2008年を基準値100として半年ごとのHSMRを算出し経年変化を分析した結果、共同行動参加登録病院147施設のHSMRは、98.5から90.7に低下していることがわかり、医療安全への真摯な取り組みの成果がすでに現れつつあることが示唆されました。

これらのことから、共同行動運営会議は、共同行動の輪をさらに広げ、所期の目的を実現するために医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”を継続することを決定いたしました。ところが、本格始動へ準備中の3月11日に東日本大震災が発生し、仙台にある共同行動事務局が被災したため、共同行動継続の案内や諸般の活動が計画通りに実施できないまま半年以上が経過してしまいました。この間、共同行動に参加する多数の団体、医療機関が東日本大震災・大規模津波災害の被災者支援に取り組み、人々のいのちと健康をまもるという医療界の強い意志と結束の力が如実に発揮されました。この意思と力を引き続き存分に発揮して医療安全の実現をめざしたいと考えますことから、キャンペーン期間を2013年3月まで延長して、あらためて医療安全全国共同行動 (2nd Stage) への参加を呼びかける次第です。

医療安全全国共同行動（2nd Stage) では、これまでの8つの目標に「安全な手術－ WHO 指針の実践」を加え、患者取り違えや異物遺残・術創感染の防止など手術に伴う有害事象の低減をめざします。また、病院だけでなく診療所にも広く参加を呼びかけ、地域推進拠点と地域支援病院の協力により地域での経験共有と相互協力の推進をめざします。

多くの課題が山積する中、医療安全の実現と医療への信頼向上は医療を担う者にとって急務の課題と考えますことから、医療界が職種や立場を超え力を結集することで、患者さんと医療者がともに安心して治療に専念できる環境づくりを1日も早く実現したいと願うものです。

【医療安全全国共同行動（2nd Stage 2011-12）の提案】

1．実施期間　2011年1月～2013年3月

2．目的（1）医療の質・安全の向上をめざす取り組みの普及

（2）医療の質・安全向上の取り組み成果を可視化

（3）医療に対する患者・市民の信頼の向上

3．行動目標 S：安全な手術 -WHO 指針の実践

1：危険薬の誤投与防止

2：周術期肺塞栓症の予防

3：危険手技の安全な実施

4：医療関連感染症の防止

5：医療機器の安全な操作と管理

6：急変時の迅速対応

7：事例要因分析から改善へ

8：患者・市民の医療参加

4．事業目標

＜医療機関＞

（1）安全対策の実施・徹底を通じて有害事象に関わる可避死を低減する

（2）医療現場に安全の文化を浸透させ、医療の質・安全を確保し向上させる組織能力の基盤を作る

（3）職種や立場を超えた協力体制を構築する

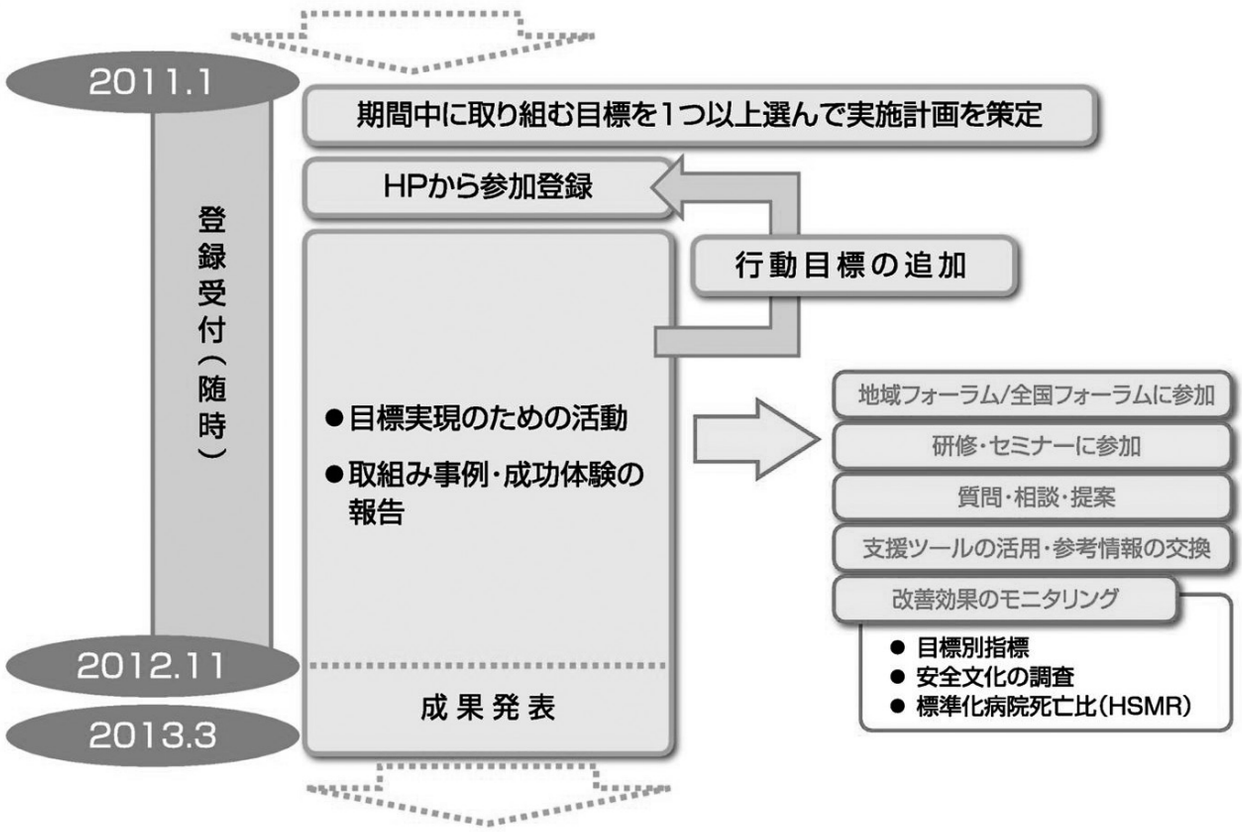
＜キャンペーン＞

（1）病院と診療所の積極的な参加

（2）有害事象と有害事象が関わる死亡の低減

（3）地域推進拠点の構築

医療安全全国共同行動（2nd Stage 2011-12）



■ 医療安全全国共同行動 運営組織

・医療安全全国共同行動運営会議委員

高久　史麿　（医療の質・安全学会理事長）　　* 医療安全全国共同行動議長
上原　鳴夫　（医療の質・安全学会副理事長）
高杉　敬久　（社団法人日本医師会常任理事）
溝渕　健一　（社団法人日本歯科医師会常務理事）
松月　みどり（公益社団法人日本看護協会常任理事）
佐藤　秀昭　（社団法人日本病院薬剤師会副会長）
本間　崇　　（社団法人日本臨床工学技士会常務理事）

・監事

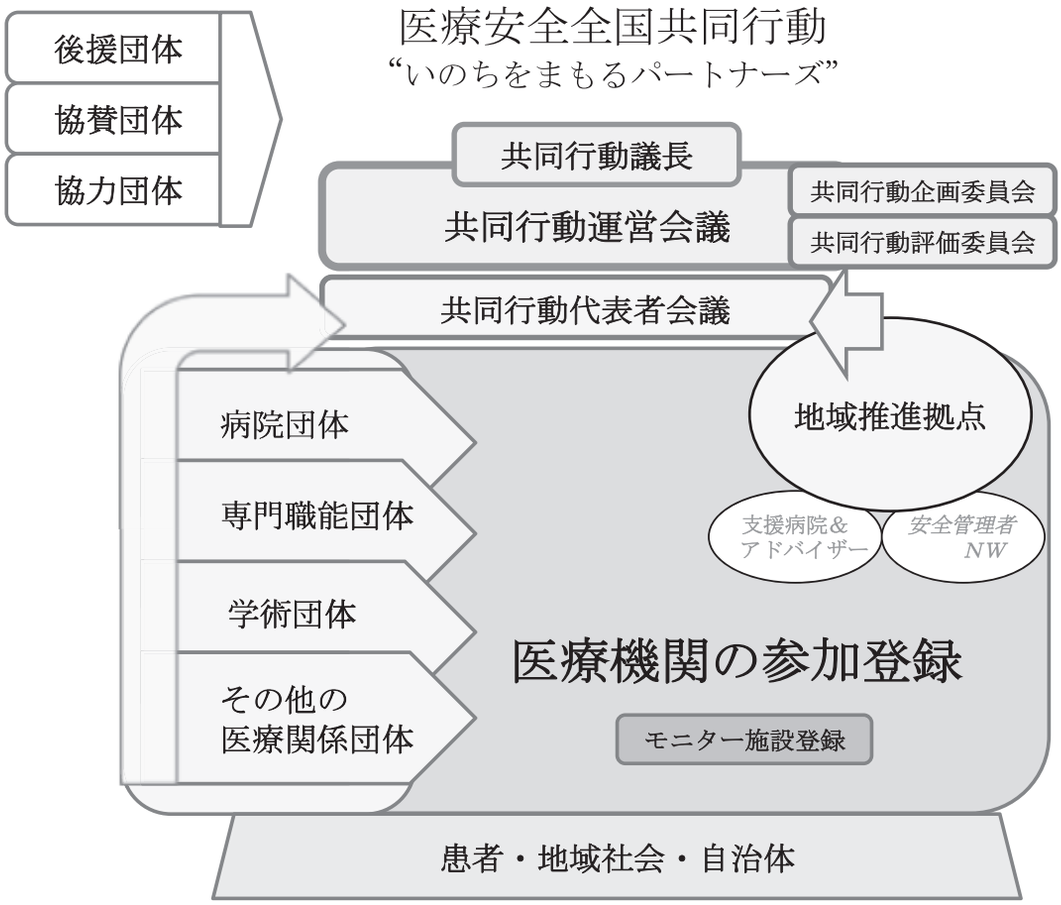
馬目　利昭　（馬目公認会計士事務所公認会計士）

・運営会議オブザーバー

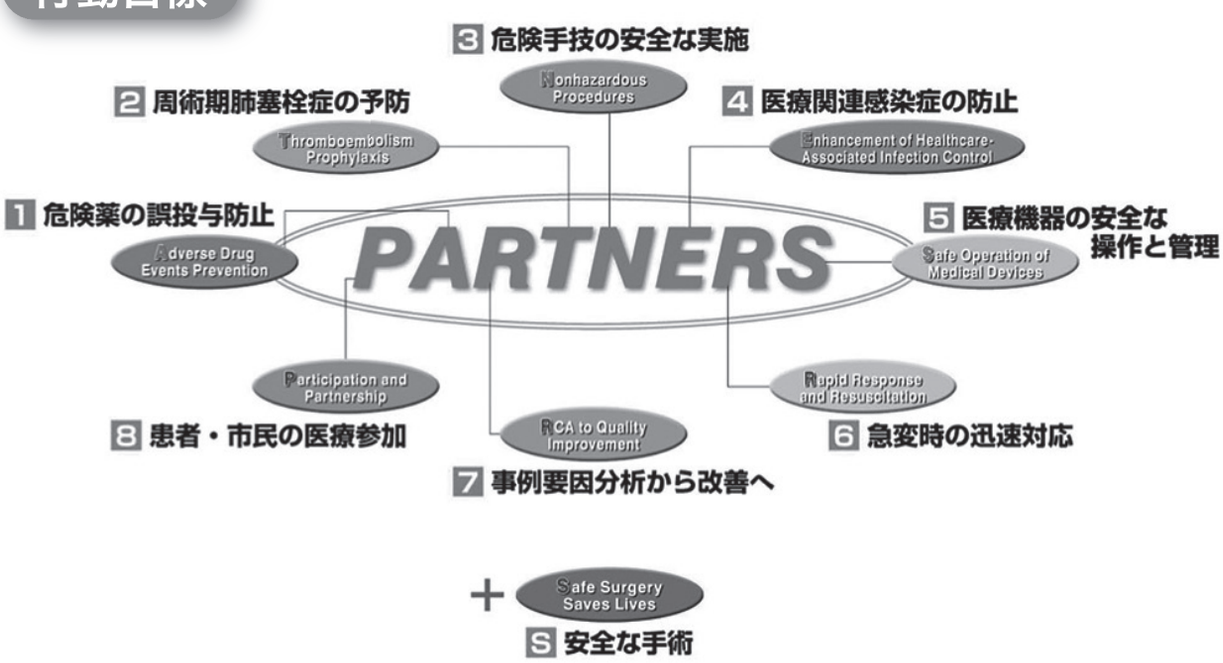
宮本　哲也　（厚生労働省医政局総務課医療安全推進室長）
野本　亀久雄（日本医療機能評価機構特任理事）
河野　龍太郎（自治医科大学教授）

・医療安全全国共同行動 企画委員会

企画委員長	上原　鳴夫	（医療の質・安全学会副理事長）
地域推進拠点部会長	神原　啓文	（静岡県病院協会会長）
診療所部会長	高杉　敬久	（社団法人日本医師会常任理事）
委員	溝渕　健一	（社団法人日本歯科医師会常務理事）
支援部会長	小泉　俊三	（医療の質・安全学会理事）
総務部会長	佐藤　秀昭	（社団法人日本病院薬剤師会副会長）
財務部会長	本間　崇	（社団法人日本臨床工学技士会常務理事）


医療安全全国共同行動
“いのちをまもるパートナーズ”
後援団体
協賛団体
協力団体
共同行動議長
共同行動運営会議
共同行動企画委員会
共同行動評価委員会
共同行動代表者会議
病院団体
専門職能団体
学術団体
その他の
医療関係団体
地域推進拠点
支援病院＆
アドバイザー
安全管理者
NW
医療機関の参加登録
モニター施設登録
患者・地域社会・自治体

行動目標


3 危険手技の安全な実施
Nonhazardous Procedures
2 周術期肺塞栓症の予防
Thromboembolism Prophylaxis
4 医療関連感染症の防止
Enhancement of Healthcare-Associated Infection Control
1 危険薬の誤投与防止
Adverse Drug Events Prevention
PARTNERS
5 医療機器の安全な操作と管理
Safe Operation of Medical Devices
Participation and Partnership
8 患者・市民の医療参加
RCA to Quality Improvement
7 事例要因分析から改善へ
Rapid Response and Resuscitation
6 急変時の迅速対応
+
Safe Surgery Saves Lives
S 安全な手術

目標別キャンペーンポスター

いのちをまもる
PARTNERS
医療安全全国共同行動

目標1 危険薬の誤投与防止

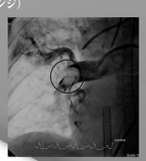
1. 危険薬の啓発と危険薬リストの作成・周知
2. 高濃度カリウム塩注射剤、高張塩化ナトリウム注射剤の病棟保管の廃止
3. 入院時持参薬の安全管理
4. 抗がん剤治療プロトコールの院内登録制度
5. 「危険薬の誤投与防止ベストプラクティス16」の実施（チャレンジ）

http://kyodokodo.jp/

いのちをまもる
PARTNERS
医療安全全国共同行動

目標2 周術期肺塞栓症の予防

1. 適正予防策選択のための総合的評価の実施
2. 予防策の確実な実施と安全管理
3. 肺塞栓予防の重要性に関する職員教育の徹底
4. 患者への説明と患者参加の促進
5. ハイリスク患者へのスクリーニング検査の実施（チャレンジ）
6. 肺塞栓症の早期診断・治療マニュアルの作成（チャレンジ）
7. 予防的抗凝固療法の安全管理（チャレンジ）



http://kyodokodo.jp/

いのちをまもる
PARTNERS
医療安全全国共同行動

目標3 危険手技の安全な実施

3a 経鼻栄養チューブ挿入時の位置確認の徹底
1. 経鼻栄養チューブの挿入と位置確認のためのマニュアルの策定及び順守
2. 空気聴診法を位置確認の確定判断基準にしない
3. 初回挿入留置時はX線撮影で位置確認を行う
4. pH測定による補強確認を励行する（チャレンジ）

3b 中心静脈カテーテル穿刺挿入手技に関する安全指針の策定と順守
1. TPNとCVC留置適応の厳格化
2. 安全な穿刺手技等の標準化
3. 安全手技の教育体制の構築（チャレンジ）

http://kyodokodo.jp/

いのちをまもる
PARTNERS
医療安全全国共同行動

目標4 医療関連感染症の防止

1. 手指衛生の徹底
2. 標準予防策・接触感染予防策の強化
3. 環境と器具の清浄化

＊ WHO "Clean Hands" Campaign

http://kyodokodo.jp/

いのちをまもる
PARTNERS
医療安全全国共同行動

目標5 医療機器の安全な操作と管理

5a 輸液ポンプ・シリンジポンプの安全管理
1. 輸液ポンプ・シリンジポンプの保守点検の確実な実施
2. 操作者マニュアルの作成と教育の徹底
3. 操作者用チェックリストの作成と適正な運用
4. 機種の統一（チャレンジ）
5. 院内認定制度の確立（チャレンジ）

5b 人工呼吸器の安全管理
1. 人工呼吸器の保守点検（日常・定期点検）の確実な実施
2. 人工呼吸器動作確認チェック表の作成と運用
＊始業時と就寝時は換気や警報の設定を人工呼吸器チェック表を用いて確認する
3. 生体情報モニタを必ず装着する
4. 人工呼吸器関連肺炎（VAP）の予防（チャレンジ）
5. 警報対応態勢の確立（チャレンジ）
＊人工呼吸器使用端末・使用条件とスタッフ教育・運用に関する院内指針の策定

http://kyodokodo.jp/

いのちをまもる
PARTNERS
医療安全全国共同行動

目標6 急変時の迅速対応

1. 有害事象に対する緊急対応手技の浸透
2. 心肺蘇生法の職員教育の徹底
3. 院内救急計画の策定と体制づくり
4. 容態変化への早期対応態勢（RRS）の確立（チャレンジ）

http://kyodokodo.jp/

いのちをまもる
PARTNERS
医療安全全国共同行動

目標7 事例要因分析から改善へ

1. 事例要因分析の手法の周知と職場での実施
2. 事例要因分析で明らかになった課題に関する改善活動の実施
3. M&Mカンファレンス（Morbidity & Mortality Conference）のプログラム化（チャレンジ）

http://kyodokodo.jp/

いのちをまもる
PARTNERS
医療安全全国共同行動

目標8 患者・市民の医療参加

1. 患者さんや地域の市民が参加・参画して医療の質・安全を向上させる活動を新規に実施する。
2. 活動の成功体験や教訓を共同行動HPから紹介する。

◆ 支援ツールを用意している参考モデル
（a『安全は名まえから』（患者と医療者の協同によるフルネーム確認）
（b『からだと病気を知るために』（院内患者図書室の設立）
（c『転ばぬ先に』（患者参加の転倒転落防止）
（d『3つのポンプを働かせよう』（仮）（患者参加による周術期肺塞栓症の予防）
（e『1冊にまとめて安心お薬手帳』（お薬手帳による処方と与薬の安全管理）
その他どのような活動でも結構です。参加病院からご提案いただくことで、さまざまな活動が広がることを期待しています。

http://kyodokodo.jp/

いのちをまもる
PARTNERS
医療安全全国共同行動

目標S 安全な手術・WHO指針の実践

1. 患者と部位を間違えない
2. 疼痛から守り有害事象を防ぐ麻酔方法
3. 気道確保困難を認識して適切に準備
4. 大量出血のリスクを認識して適切に準備
5. アレルギーや薬剤副作用の誘発を避ける
6. 手術部位感染を防ぐ
7. 異物遺残を防ぐ
8. 手術標本の確保と確認
9. コミュニケーションを確実に
10. 手術サーベイランスの確立

http://kyodokodo.jp/